



▲中南米最大の商業都市  
サンパウロの風景

わあ！  
近代的なビルが  
建ち並んで  
いるんだね。

## 酪農学園大学の野生動物 保護管理学研究室の研究生

平成21年度北海道出身海外移住者子弟留学生として来道した佐々木美樹アナ・ルシアさん(ブラジル連邦共和国サンパウロ市出身)は、来年3月末まで1年間、酪農学園大学の野生動物保護管理学研究室(吉田剛司准教授)に研究生として在籍し研修します。研究テーマは、「希少動物及び野生生物の保全における動物園の役割」です！

ゼミ生といっしょに洞爺湖で外来種のザリガニの調査や、札幌円山動物園と研究室が共同で実施しているパートナー・プロジェクトの取り組みに参加しています。動物園を訪れた子どもたちに動物の名前を教えたりしました。また、晴れた日の夕方には自然環境に恵まれた酪農学園大学の背後に広がる野幌原始林で「虫捕り」にも出かけるなど、北海道の動物について学んでいます。さらに、北方圏センターなどが行う国際理解教室の講師や道内各地での国際交流イベントへの参加などもあり、大学での研究とは別に北海道民と触れあう機会もあります。



▲佐々木美樹さん(左端)とご家族(2009年1月)



ブラジル

●ブラジリア市  
●サンパウロ市



国籍／ブラジル  
名前／佐々木美樹  
アナ・ルシアさん

毎日染こん  
縮纏じん  
じゅん。



## おばあちゃんが見せたがっていた北海道

ルシアさんは北海道費留学生としてやって来ました。母方の祖母が札幌市出身で子どもの頃にブラジルに渡った人。「おばあちゃんが見せたいと言っていた北海道での留学が決まった時は嬉しかったです」。両親の家を離れるのは初めてでホームシックになるのではないかと自分でも心配だったそうですが、今は北海道や札幌の美しい自然に囲まれ、大学の仲間たちや先生にも親切にもらい学生生活を楽しんでいます。特に美しいと思うのは、通学のバスの沿線の木々や道に植えられている花壇の花々。近くの川や野原に咲くタンポポもきれいと、あちこちで写真を撮っているそうです。

ブラジルの大学で、すでに動植物を学び卒業後は教師への道と研究者への道がありましたが、人と話すのが苦手なので教師にはなりません。帰国後、地元の動物園などで仕事をしたいと思っているそうです。



▼ブラジルの国花イペ

## サンパウロ市郊外の サンジョゼ・ド・リオ・プレトでは カピバラが見られる！

ここが、ルシアさんの故郷。カピバラを見ることができるところで、「初めて見た時は、大きいなあと驚きました」とルシアさんが言うとおり、とにかく大きなネズミを想像するとよいらしい。野原にいるのを見て車を停めて写真を撮ったりするくらい珍しい生き物です。他にアリクイもいます。アリクイは大小2種類がいて、大きいのは数が少なくなって絶滅危惧種に指定されています。バイオ燃料の原料であるサトウキビ畑を広がっているのでアリクイの生存領域が狭められていることも理由のひとつです。

こんな可愛い動物が  
見られるんだね。



◀◀野生に生息する  
カピバラ(左)とアリクイ(上)



## 移住記念の「友好の翼」で交流訪問団が飛びます！

(社)北方圏センター、北海道日伯協会、北海道パラグアイ協会は今年のブラジル移住90周年、パラグアイ移住70周年、ブラジル北海道交流センター落成10周年記念式典を記念して、8月30日に行われる式典への参加を組むなど3コースの訪問団を派遣します。(詳しくは北方圏センター南米圏交流室まで)

旅行企画・実施/(株)日本旅行北海道 札幌支店